

教科	国語	科目	国語表現	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『国語表現 改訂版』（大修館書店） ②『国語表現[改訂版] 基礎練習ノート』（大修館書店）
③『新国語総合ガイド』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	—表現力を培う 1 書いて伝える	(7)	1 学期期末 考查	
	5月	2 小論文・レポート入門	(7)		
	6月	3 自分を見つめて	(6)		
	7月		20		
2 学 期	8月	—表現力を培う 4 メディアを駆使する	(7)		2 学期期末 考查
	9月	5 会話・議論・発表	(8)		
	10月	—表現を楽しむ			
	11月	6 働く人へインタビュー 2 詩歌を楽しむ	(7)		
	12月		(8)		
3 学 期	1月	—表現を楽しむ			3 学期期末 考查
	2月	8 エッセイを書こう 9 パロディー物語を書こう	(7)		
	3月	敬語・正しい表記	(6)		
			20		

計 70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ① 3回の定期考查（1学期期末・2学期期末・3学期期末の素点）
② 出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）
③ 授業態度（教材準備・発問評価・積極性等）
④ 家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

計画はあくまでも目安であるので、その都度指示する。授業中は書いたり、読んだりする時間が多くなるので、集中して取り組み、提出課題は期限までにきちんとやって出すようにする。また国語辞典を必ず持参すること。

教科	国語	科目	現代文 B	単位数	2
学年	2年	学科	普通・国際教養科	履修対象	必修（文系・理系・国際教養）

1. 学習の目標・概要

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって、人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『精選現代文B』（東京書籍） ②『精選現代文学習課題ノート』（東京書籍）
 ③『新常用漢字必携パーフェクトクリア』（尚文出版） ④『新成 現代文』（尚文出版）
 ⑤『新国語総合ガイド五訂版』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間	考查範囲
1 学 期	4月	【評論】小林康夫「世界をつくり替えるために」 清岡卓行「ミロのヴィーナス」	(4)	1学期中間
	5月		(6)	
	6月	【小説】中島 敦 「山月記」	(10)	1学期期末
	7月		20	
2 学 期	8月	【評論】鈴木孝夫 「相手依存の自己規定」 【評論】小川眞里子 「科学的『発見』とは」	(6)	2学期中間
	9月		(6)	
	10月	【小説】夏目漱石 「こころ」 【評論】多木浩二 「消費されるスポーツ」	(13)	2学期期末
	11月		(5)	
12月	30			
3 学 期	1月	【評論】長谷川英祐「人間の運命と科学」 【評論】高階秀爾 「日本人の美意識」 【評論】若林幹夫 「地図の想像力」	(6)	3学期期末
	2月		(7)	
	3月		(7)	
			20	

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考査（1学期中間・期末／2学期中間・期末／3学期期末）の素点 ②出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）
 ③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

1. 分からない、あるいは分かりづらい語句は辞書で調べ、語彙を増やす。
 2. 文章を読んで考えたことを、自分の言葉でまとめ、表現する力をつけること。そのために日頃から読書や新聞など活字に親しみ基本的理解力を高めていく。
 3. 毎時間行う漢字・語句の小テストの勉強をしっかりと行うこと。

教科	普通科	科目	古典A		単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	選択者	

1. 学習の目標・概要

多くの古典作品に触れることによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典作品を楽しみながら講読することにより、日本・中国の歴史文化を学び、人生を豊かにする。

2. 使用教材

- ①『古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章』（第一学習社） ②『古典A 学習課題帳』（第一学習社）
 ③『高校生の古典文法』（京都書房） ④『高校生の文法 演習編』（京都書房）
 ⑤『重要古文単語 315 三訂版』（桐原書店） ⑥『漢文学習必携』（京都書房）
 ⑦『新国語総合ガイド』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【古文】 伊勢物語「渚の院」 伊勢物語「さらぬ別れ」	(5) (5)	中間 考 査
	5月			
	6月	【漢文】 諸家の文章「答陳商書」 諸家の文章「飛雲渡」	(5) (5)	期 末 考 査
	7月			
			20	
2 学 期	8月	【古文】 大和物語「旅寝の夢」 大和物語「いはで思ふ」	(8) (4)	中間 考 査
	9月	堤中納言物語「はいずみ」	(4)	
	10月	【漢文】 搜神記「織女」 搜神記「売鬼」	(6) (8)	期 末 考 査
	11月 12月		30	
			30	
3 学 期	1月	【古文】 大鏡「時平と道真」 大鏡「村上天皇と中宮安子」	(8) (3)	期 末 考 査
	2月	【漢文】 搜神記「蟻王」 幽明録「買粉児」	(5) (4)	
	3月		20	

計70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合的に評価する。

- ①定期考査の素点 ②出席状況（欠課・遅刻・早退の数） ③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習を前提とした授業を行う。以下を各自で行った上で授業に参加すること。

古文：語句調べ、本文書写、品詞分解、口語訳

漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要単語・句形のチェック

授業後は必ず復習の時間をとり、重要語句、文法事項、句形等を覚えていくこと。

教科	国語	科目	古典 B（普通科文系・国際教養科）	単位数	3
学年	2年	学科	普通・国際教養科	履修対象	必修（文系・国際教養）

1. 学習の目標・概要

古典としての古文、漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『精選古典B 新版』（東京書籍）
 ②『精選古典B 学習課題ノート』（東京書籍）
 ③『高校生の古典文法』（京都書房） ④『高校生の古典文法』（京都書房）
 ⑤『重要古文単語 315 三訂版』（桐原書店） ⑥『新成古典』（尚文出版）
 ⑦『漢文学習必携』（京都書房） ⑧『新国語総合ガイド』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【古文】伊勢物語「初冠」「渚の院」 【漢文】小話「不死之薬」「漱石枕流」	(5)	1学期中間
	5月		(6)	
	6月	【古文】枕草子「すさまじきもの」「雪のいと高う降りたるを」 【漢文】近体詩 絶句・律詩	(4)	1学期期末
	7月		(5)	
			(4)	
2 学 期	8月	【古文】更級日記「門出」「物語」 【漢文】史記「鴻門之会」	(6)	2学期中間
	9月		(4)	
	10月	【古文】大鏡「花山天皇の出家」「道長、伊周の競射」 「三船の才」 【漢文】史記「鴻門之会」「四面楚歌」「項王自刎」	(8)	2学期期末
	11月		(5)	
12月	(6)			
			(6)	
3 学 期	1月	【古文】源氏物語「光源氏誕生」 「若紫」	(12)	3学期期末
	2月		(8)	
	3月	【漢文】思想 儒家・道家・法家 文章「漁父辞」	(6)	
			(8)	
			(6)	
			30	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考查（1学期中間・期末／2学期中間・期末／3学期期末）の素点 ②出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）
 ③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習を前提とした授業を行う。以下を各自で行った上で授業に参加すること。

古文：本文書写、語句調べ、品詞分解、口語訳

漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要単語・句形のチェック

授業後は必ず復習の時間をとり、重要語句、文法事項、句形等を覚えていくこと。

教科	国語	科目	古典 B（普通科理系）	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	必修（普通科理系）

1. 学習の目標・概要

古典としての古文、漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。

2. 使用教材

- ①『精選古典B 新版』（東京書籍）
 ②『精選古典B 学習課題ノート』（東京書籍）
 ③『高校生の古典文法』（京都書房） ④『高校生の古典文法』（京都書房）
 ⑤『重要古文単語 315 三訂版』（桐原書店） ⑥『新成古典』（尚文出版）
 ⑦『漢文学習必携』（京都書房） ⑧『新国語総合ガイド』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	【古文】伊勢物語「初冠」「渚の院」 【漢文】小話「不死之薬」「漱石枕流」	(5)	1 学期中間
	5月		(5)	
	6月	【古文】枕草子「すさまじきもの」「雪のいと高う降りたるを」 【漢文】近体詩 絶句・律詩	(5)	1 学期期末
	7月		(5) 20	
2 学期	8月	【古文】更級日記「門出」「物語」 【漢文】史記「鴻門之会」	(7)	2 学期中間
	9月		(8)	
	10月	【古文】大鏡「花山天皇の出家」「道長、伊周の競射」 「三船の才」 【漢文】史記「鴻門之会」「四面楚歌」「項王自刎」	(7)	2 学期期末
	11月		(8)	
12月	30			
3 学期	1月	【古文】源氏物語「光源氏誕生」 「若紫」	(5)	3 学期期末
	2月		(5)	
	3月	【漢文】思想 儒家・道家・法家 文章「漁父辞」	(5) 20	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合評価する。

- ①定期考查（1 学期中間・期末／2 学期中間・期末／3 学期期末）の素点 ②出欠状況（欠課・遅刻・早退の数）
 ③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習を前提とした授業を行う。以下を各自で行った上で授業に参加すること。

古文：本文書写、語句調べ、品詞分解、口語訳

漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要単語・句形のチェック

授業後は必ず復習の時間をとり、重要語句、文法事項、句形等を覚えていくこと。

教科	地理歴史	科目	世界史 B		単位数	3
学年	2年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科文系(選択)・国際教養科(必修)	

1. 学習の目標・概要

世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代社会の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2. 使用教材

教科書：詳説世界史 B (山川出版社)
副教材：アカデミア世界史 (浜島書店) 新世界史研究ノート (啓隆社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考査範囲
1 学 期	4月	世界史への扉、先史の世界	7時間	中間考査 期末考査
	5月	オリエントと地中海世界	8時間	
	6月	アジア・アメリカの古代文明	8時間	
	7月	東アジア世界の形成と発展	7時間	
2 学 期	8月	内陸アジア世界の変遷	9時間	中間考査
	9月	イスラーム世界の形成と発展	9時間	
	10月	ヨーロッパ世界の形成と発展	9時間	
	11月	諸地域世界の交流、アジア諸地域の繁栄	9時間	期末考査
	12月	アジア諸地域の繁栄	9時間	
3 学 期	1月	近代ヨーロッパの成立	10時間	中間考査
	2月	ヨーロッパ主権国家体制の展開	10時間	期末考査
	3月	現代の社会 歴史事象と現代社会との関係を理解	10時間	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度・・・主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
②思考・判断・・・学習内容の意味を正しく理解し、各時代の諸状況の背景を理解できたか。
③技能・表現・・・学習内容や自己の意見を、場面に応じ的確に表現できたか。
④知識・理解・・・学習した知識を理解し、定着させることができたか。
以上の評価の観点に従って、出欠・授業態度・課題の達成度・課題の提出度・定期考査の得点を総合的に加味して、評価を行う。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

配布プリントやノートした学習内容を反復学習することによって完璧に暗記し、基礎知識を習得して、中間試験・期末試験に備えるようにする。

教科	地理歴史	科目	日本史 A		単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	2年普通科文系選択者	

1. 学習の目標・概要

日本に生きた人々の足跡を、近現代を中心としてたどり、現代の社会に対する認識を広げる。周辺国との関わりも学び、これからの時代に民主主義を守り育てていく市民として、生徒が積極的に考え、行動できるための知識の定着を図る。

2. 使用教材

教科書：日本史 A（山川出版社）
副教材：図説日本史通覧（帝国書院） テーマ学習史料日本史（実教出版）
4ステージ演習ノート日本史（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	日本の開国と江戸幕府の滅亡	5時間	期末 考 査
	5月	明治維新と富国強兵、文明開化	5時間	
	6月	自由民権運動と立憲政治の成立	5時間	
	7月	日清・日露戦争と社会・経済の変容、明治の分化	5時間	
2 学 期	8月	政党政治の展開とワシントン体制	6時間	中 間 考 査
	9月	大正期の社会・経済と文化	6時間	
	10月	昭和の恐慌と内政・外交	6時間	
	11月	軍部の台頭と太平洋戦争	6時間	
	12月	占領下の日本と改革	6時間	
3 学 期	1月	55年体制の成立	7時間	期 末 考 査
	2月	高度経済成長期の日本経済と社会	7時間	
	3月	現代の日本	6時間	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度・・・主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
②思考・判断・・・学習内容の意味を正しく理解し、各時代の諸状況の背景を理解できたか。
③技能・表現・・・学習内容や自己の意見を、場面に応じ的確に表現できたか。
④知識・理解・・・学習した知識を理解し、定着させることができたか。
以上の評価の観点に従って、出欠・授業態度・課題の達成度・課題の提出度・定期考査の得点を総合的に加味して、評価を行う。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

何よりも授業を大切に、真摯な姿勢で臨むこと。

教科	地理歴史	科目	日本史 B		単位数	3
学年	2年	学科	普通科	履修対象	2年普通科文系選択者	

1. 学習の目標・概要

現在に至るまでの日本列島とそこに生きた人々の足跡を旧石器時代から順にたどり、現代の社会に対する認識を広げる。周辺国との関わりも学び、これからの時代に民主主義を守り育てていく市民として、生徒が積極的に考え、行動できるための知識の定着を図る。

2. 使用教材

教科書：日本史B（山川出版社）
 副教材：図説日本史通覧（帝国書院） テーマ学習史料日本史（実教出版）
 4ステージ演習ノート日本史（数研出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	日本のあけぼの～縄文・弥生・古墳文化～	7時間	中間 考查
	5月	飛鳥の朝廷	8時間	
	6月	律令国家と平城京	8時間	
	7月	平安王朝の形成	7時間	
2 学期	8月	摂関政治と国風文化	9時間	中間 考查
	9月	武士の登場と平氏の台頭	9時間	
	10月	鎌倉幕府の成立と滅亡	9時間	
	11月	室町幕府の成立と滅亡	9時間	
3 学期	12月	戦国大名の登場と織豊政権	9時間	期末 考查
	1月	江戸幕府の成立と幕藩体制の成立	10時間	中間 考查
	2月	幕政の安定・経済の発展・元禄文化	10時間	
3月	幕藩体制の動揺と宝暦・化政文化	10時間		

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度・・・主体的かつ積極的な態度で、日々の学習活動に取り組むことができたか。
 ②思考・判断・・・学習内容の意味を正しく理解し、各時代の諸状況の背景を理解できたか。
 ③技能・表現・・・学習内容や自己の意見を、場面に応じ的確に表現できたか。
 ④知識・理解・・・学習した知識を理解し、定着させることができたか。
 以上の評価の観点に従って、出欠・授業態度・課題の達成度・課題の提出度・定期考查の得点を総合的に加味して、評価を行う。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

配布プリントやノートした学習内容を反復学習することによって完璧に暗記し、基礎知識を習得して、中間試験・期末試験に備えるようにする。

教科	地理歴史	科目	地理A		単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	文系選択者	

1. 学習の目標・概要

現在の世界に対する認識を広げ、身近な世界とのつながりを知る。
我々の生きてゆく地域や社会を広い視野でとらえ、よりよい生活、環境をつくりあげる。

2. 使用教材

教科書：基本地理A（二宮） 現代地図帳（二宮）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	地球儀と地図…地球，時差，地図の歴史，図法	5時間	(中間) 時差・地形 図の読図
	5月	国と国の結びつく…国家と領域，日本の位置，世界の結びつき	5時間	
	6月	地形と私たちの暮らし…プレートと変動帯，河川地形，海岸地形	5時間	(期末) 大地形，小 地形
	7月	気候と私たちの暮らし…大気循環，ケッペンの気候区分	5時間	
2 学期	8月	気候と私たちの暮らし…世界の気候	6時間	(中間) 世界の気候 帯と気候区
	9月	世界の農業・世界の工業	6時間	
	10月	宗教と文化・言語民族と文化	6時間	(期末) 世界の農工 業と世界各 地の生活
	11月	世界各地の生活・文化…中国・朝鮮半島・東南アジア	6時間	
3 学期	12月	世界各地の生活・文化…南アジア・アフリカ・ヨーロッパ	6時間	(中間) 世界各地の 生活 (期末) 地球的課題 と生活圏の 諸課題
	1月	世界各地の生活・文化…ロシア・アングロアメリカ・オセアニア	7時間	
	2月	地球的課題…人口問題，食糧問題，都市問題，エネルギー問題 環境問題	7時間	
	3月	生活圏の諸課題…地図とGISの利用，日本の自然災害	6時間	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度・・・主体的かつ積極的な態度で，日々の学習活動に取り組むことができたか。
②思考・判断・・・学習内容の意味を正しく理解し，現代の世界の諸状況の背景を理解できたか。
③技能・表現・・・学習内容や自己の意見を，場面に応じ的確に表現できたか。
④知識・理解・・・学習した知識を理解し，定着させることができたか。
以上の評価の観点に従って，出欠・授業態度・課題の達成度・課題の提出度・定期考査の得点を総合的に加味して，評価を行う。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

配布プリントやノートした学習内容を反復学習することによって完璧に暗記し，基礎知識を習得して，中間試験・期末試験に備えるようにする。

教科	地理歴史	科目	地理 B		単位数	3
学年	2年	学科	普通科	履修対象	理系必修選択	

1. 学習の目標・概要

グローバル化した現代において、日本と世界の相互依存の現状を知り、各国の環境や生活・文化への理解を深める。地球的な課題の解決と共生社会の確立に向け、地理的な見方・思考・技能を養い、現代の我々が為す出来事を考える。

2. 使用教材

新詳地理B（帝国書院）、現代地図帳（二宮書店）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	地理情報と地図、地図の活用と地域調査	7時間	中間試験 期末試験
	5月	世界の地形	8時間	
	6月	世界の気候、環境問題	8時間	
	7月	農林水産業、食糧問題、エネルギー・鉱産資源	7時間	
2 学期	8月	工業、交通・通信、消費、資源、食料	9時間	中間試験 期末試験 中間試験
	9月	人口問題、都市・村落、都市・居住問題	9時間	
	10月	生活文化、民族・宗教	9時間	
	11月	東アジア、東南アジア、南アジア	9時間	
	12月	西アジアと中央アジア、アフリカ、ヨーロッパ	9時間	
3 学期	1月	ヨーロッパ、ロシア、アングロアメリカ	10時間	期末試験
	2月	ラテンアメリカ、オーストラリア	10時間	
	3月	現代世界と日本	10時間	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

① 授業への参加状況 ② 授業への準備状況 ③ 課題の提出状況
 ④ 課題の達成状況 ⑤ 家庭での学習状況 ⑥ 定期考査の得点等を総合的に評価します。
 自己の意見を、場面に応じ的確に表現できたか。
 ④学習した知識を理解し、定着させることができたか。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 1) 人々が生活する諸地域への関心や理解を深めましょう。
- 2) 地形・気候等の要因がその地域の産業発展に深く関わっていることを理解しよう。
- 3) 系統地理が地誌の内容と必然的な繋がりがあることを理解しよう。
- 4) ノート・プリント類の提出期限は守ってください。

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	4
学年	2年	学科	普通科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

高校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身に付ける。

2. 使用教材

数学Ⅱ Advanced (東京書籍) PRIME 数学Ⅱ演習ノートおよび解答編 (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲
1 学 期	4月	数学Ⅱ 1章「方程式・式と証明」 整式の乗法・除法と分数式 2次方程式、高次方程式、式 と証明	60	中間テスト
	5月			
	6月	2章「図形と方程式」 点と直線、円、軌跡と領域		
	7月	3章「三角関数」 三角関数、		
2 学 期	8月	加法定理	80	中間テスト
	9月	4章「指数関数・対数関数」 指数関数、対数関数		
	10月			
	11月	5章「微分と積分」 微分係数と導関数、 導関数の応用、積分		
	12月			
3 学 期	1月			
	2月			
	3月			

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点、小テストの得点、提出物から総合的に成績をつける。また、授業態度・出欠席・追試結果・補習態度などを加味する。年間評定は、各学期の成績を基準として総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

数学の力を定着させるためには、「復習と演習」が特に重要である。すぐに解答を見ずにまずは自分の力で考え、解答を作ることが大切である。また、小テストで短い範囲の基礎的内容を十分に理解しておくことが定期テスト、更には数学の力につながる。

教科	数学	科目	数学Ⅱ	単位数	3
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

高校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身に付ける。

2. 使用教材

数学Ⅱ Advanced (東京書籍) PRIME 数学Ⅱ演習ノートおよび解答編 (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲
1 学 期	4月	数学Ⅱ 1章「方程式・式と証明」 整式の乗法・除法と分数式 2次方程式、高次方程式、式 と証明	45	中間テスト
	5月			
	6月	2章「図形と方程式」 点と直線、円、軌跡と領域		
	7月	3章「三角関数」 三角関数、		
2 学 期	8月	加法定理	60	中間テスト
	9月	4章「指数関数・対数関数」 指数関数、対数関数		
	10月			
	11月	5章「微分と積分」 微分係数と導関数、 導関数の応用、積分		
	12月			
3 学 期	1月			
	2月			
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査の得点、小テストの得点、提出物から総合的に成績をつける。また、授業態度・出欠席・追試結果・補習態度などを加味する。年間評定は、各学期の成績を基準として総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

数学の力を定着させるためには、「復習と演習」が特に重要である。すぐに解答を見ずにまずは自分の力で考え、解答を作ることが大切である。また、小テストで短い範囲の基礎的内容を十分に理解しておくことが定期テスト、更には数学の力につながる。

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科 選択者

1. 学習の目標・概要

高校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身に付ける。

2. 使用教材

数学 B Advanced (東京書籍) PRIME 数学 B 演習ノートおよび解答編 (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲	
1 学期	4月			中間テスト 期末テスト	
	5月				
	6月				
	7月				
2 学期	8月				
	9月				
	10月				
	11月				
	12月	数学B 1章「数列」	数列、漸化式と数学的帰納法		14
3 学期	1月	2章「ベクトル」	平面上のベクトル ベクトルの応用		56
	2月		空間におけるベクトル		
	3月				

計 70

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・定期考査の得点、小テストの得点、提出物の提出状況を中心として、授業態度、出欠席、追試結果なども加味して、総合的に成績をつける。
- ・年間評定は、1年間の成績を基準にして、総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・その日のうちに問題集を使って復習をすること。
- ・テストを有効に利用し、自分の弱点を見つけ、やり直しを必ず行うこと。
- ・分からない箇所はそのままにせずに参考書で調べたり、質問したりすること。

教科	数学	科目	数学 B	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

高校数学の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する姿勢を身に付ける。

2. 使用教材

数学 B Advanced (東京書籍) PRIME 数学 B 演習ノートおよび解答編 (東京書籍)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲
1 学期	4月	、		
	5月			
	6月			
	7月			
2 学期	8月	数学B 1章「数列」	数列、漸化式と数学的帰納法	14
	9月			
	10月			
	11月			
	12月			
3 学期	1月	2章「ベクトル」	平面上のベクトル ベクトルの応用 空間におけるベクトル	56
	2月			
	3月			
				中間テスト 期末テスト

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・定期考査の得点、小テストの得点、提出物の提出状況を中心として、授業態度、出欠席、追試結果なども加味して、総合的に成績をつける。
- ・年間評定は、1年間の成績を基準にして、総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・その日のうちに問題集を使って復習をすること。
- ・テストを有効に利用し、自分の弱点を見つけ、やり直しを必ず行うこと。
- ・分からない箇所はそのままにせず参考書で調べたり、質問したりすること。

教科	理科	科目	物 理	単位数	3
学年	2年	学科	普通科	履修対象	理系物理基礎選択者

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てる。
物理法則の理解を求め、科学的な自然観を育成する

2. 使用教材

改訂版 物理 (数研出版)
リードα 物理基礎・物理 (数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
2 学 期	8月	力と運動 平面の運動, 剛体	2.5	2学期中間
	9月			
	10月	運動量の保存	2.5	
	11月	円運動と万有引力	2.5	
12月	3学期中間			
3 学 期	1月	熱と気体 気体のエネルギーと状態変化	2.5	3学期末
	2月	気体分子の運動, 状態変化	5	
	3月	波 波の伝わり方		

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験に、平常点(実験レポートの提出点)を加味する。
授業への参加状態 (討論等), 出席状況を考慮する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に遅れたり休んだりしないこと。
提出物の期限を守ること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	理系物理基礎選択者

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てる。
物理法則の理解を求め、科学的な自然観を育成する

2. 使用教材

物理基礎 (数研出版)
物理基礎 準拠ノート (数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	運動の表し方 速度・加速度・落体の運動	7 7	1 学期中間 考查	
	5月	運動の法則 いろいろな力・運動の法則・摩擦や空気の抵抗を受ける運動・	7 7		
	6月	剛体にはたらく力のつりあい 仕事と力学的エネルギー	7 7		
	7月	仕事 運動エネルギー・位置エネルギー 力学的エネルギー保存の法則 熱・電気とエネルギー・エネルギーの保存	7 7 7		1 学期末考 査
	2 学 期	8月	波 波の性質, 重ね合わせの原理	7	2 学期中間 考查
		9月	音 音の性質, 発音体の振動と共鳴共振	7	
		10月	電気 物質と電気抵抗		
		11月	交流と電磁波 エネルギーとその利用	7	
		12月			
	3 学 期	1月 2月 3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験に、平常点(実験レポートの提出点)を加味する。
授業への参加状態 (討論等), 出席状況を考慮する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に遅れたり休んだりしないこと。
提出物の期限を守ること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。

教科	理科	科目	化学	単位数	3
学年	2年	学科	普通科	履修対象	理系化学選択者

1. 学習の目標・概要

自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てる。
物質の構造や性質に対する理解を求め、化学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

改訂版 化学 (数研出版)
リード Light ノート化学 (数研出版)
スクエア最新図説化学 (第一学習社)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期		(「物理基礎」2単位を学習) 物理基礎を参照	(30)	
2 学期	7月	(「物理基礎」2単位を学習)	(5)	2学期中間
	8月	物質の状態 粒子の結合と結晶の構造	10	
	9月	物質の三態と状態変化	10	2学期末
	10月	気体	10	
11月	溶液	10	3学期中間	
3 学期	12月	物質の変化 化学反応とエネルギー	10	3学期末
	1月	電池と電気分解	10	
	2月	化学反応の速さとしくみ	10	
	3月			

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験
平常点(実験レポートの提出点、課題ノート提出、出席状況)を加味する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

ノートの作り方を工夫すること。
教科書の例題・練習問題や問題集の問題を繰り返し解くこと。
提出物の期限を守ること。

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	2年国際教養科(必修)

1. 学習の目標・概要

- ・化学・生物の学習を通し科学的なものの見方や考え方を身に付ける。
- ・実験・観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。
- ・化学・生物を理解することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身に付ける。

2. 使用教材

(化学基礎)
 新版化学基礎(実教出版)
 アクセスノート化学基礎(実教出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当コマ数	考査範囲	
1 学 期	4月	物質の探究	5	1学期中間考査	物質の探究
	5月	物質の構成粒子	10		
	6月 7月	物質と化学結合	5	1学期期末考査	物質の構成粒子 物質と化学結合
2 学 期	8月	物質と化学結合	10	2学期中間考査	物質と化学結合 物質と化学結合
	9月	物質と化学反応式	15		
	10月 11月			2学期期末考査	物質と化学反応式
	12月	酸と塩基	5		
3 学 期	1月	酸と塩基	5	3学期中間考査	酸と塩基
	2月	酸化還元反応	15		
	3月			3学期期末考査	酸化還元反応

計 70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査、実験レポートから総合的に評価する。
 ただし、提出物の状況・授業態度が著しく悪い者については減点対象とする。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に集中し、教科書の内容理解につとめる。
- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実験レポートをきちんと提出すること。
- ・授業での様子・考査の到達度等、理解の具合によって授業進度を変更する場合もある。

教科	理科	科目	生物	単位数	3
学年	2年	学科	普通科	履修対象	理系 選択

1. 学習の目標・概要

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2. 使用教材

教科書 生物 Biology (東京書籍)
 図表 スクエア最新図説生物 (第一学習社)
 問題集 実践アクセス総合生物 (浜島書店)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間数	考查範囲
1 学 期	4月	第1編 生命現象と物質		1学期中間
		1章 生体物質と細胞	4	
	5月	2章 生命現象を支えるタンパク質	6	
		3章 代謝とエネルギー	5	1学期期末
	6月	第2編 遺伝子のはたらき		
		1章 遺伝情報の発現	5	
2 学 期		2章 遺伝子の発現調節	5	2学期中間
	7月	3章 バイオテクノロジー	5	
	8月	第3編 生殖と発生		
		1章 生物の生殖と配偶子の形成	5	2学期末
	9月	2章 動物の発生	6	
	10月	3章 動物の発生のしくみ	5	
		4章 発生をつかさどる遺伝子	6	3学期中間
	11月	5章 植物の発生	6	
	12月	第4編 生物の環境応答		
		1章 動物の刺激の受容と反応	5	3学期期末
	2章 動物の行動	6		
	3章 植物の環境応答	6		
3 学 期	1月	第5編 生態と環境		3学期中間
		1章 個体群と生物群集	5	
		2章 生態系の物質生産とエネルギーの流れ	5	
	2月	3章 生態系と生物多様性	5	3学期期末
		第6編 生物の進化と系統		
		1章 生命の起源と生物の変遷	5	
	3月	2章 進化のしくみ	5	
	3章 生物の系統	5		

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

・定期考査に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・授業に遅れたり休んだりしないこと。 ・配布プリントは確実に保存し、提出物の期限を守ること。
 ・実習レポートをきちんと提出すること。 ・定期考査にはしっかりと学習して臨むこと。
 ・備品・標本はていねいに扱うこと。

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
学年	2年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科選択者・国際教養科全員

1. 学習の目標・概要

- ・地学基礎の学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につける。
- ・実験・実習・観察を通して、科学的に探究する能力を身につける。
- ・地学の基礎を理解することによって、自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

教科書 新編地学基礎 (数研出版)
 図表 フォトサイエンス地学図録 (数研出版)
 問題集 リードα地学基礎 (数研出版)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	序編 惑星としての地球	7	期末 考 査	
	5月	第1章 太陽系の天体 第2章 太陽系の誕生と地球の進化			
	6月	第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動	17		
	7月	第3章 地震と地殻変動 第4章 火山			
2 学 期	8月	第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成	17		中間 考 査
	9月	第2章 古生物の変遷と地球環境			
	10月	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支	16		
	11月	第2章 大気と海水の運動			
	12月				
3 学 期	1月	第4編 地球の環境 第1章 地球環境の科学	13	期末 考 査	
	2月	第2章 日本の自然環境			
	3月	第5編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星 第2章 宇宙のすがた			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査に加え、平常の授業への取り組み・実習レポート・出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・配布プリントは確実に保存し、提出物の期限を守ること。
- ・実習レポートはきちんと提出すること。
- ・定期考査にはしっかりと学習して臨むこと。
- ・備品・標本はていねいに扱うこと。

教科	理科	科目	理科探究 A（2年）		単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科 選択者	

1. 学習の目標・概要

- ・基礎的な科学的素養(特に生物領域)を探究的な学習を通し、科学的なものの見方や考え方を身につけ、進路希望に応じた発展的な学習内容を習得する。
- ・実験・実習・観察を通して科学的に探究する能力を身につける。
- ・生物を中心に学習することによって自然や地球環境を尊重する意識と態度を身につける。

2. 使用教材

- ・教科書：生物の基本マスター（啓林館）
- ・図表：スクエア最新図説生物（第一学習社）

	月	学習内容	配当時間	考查範囲
1 学期	4月	1 生命現象と物質 ①生体物質と細胞 ②タンパク質の性質・酵素 ③代謝 ④遺伝情報の発現	20	期末考查
	5月			
	6月			
	7月			
2 学期	8月	2 生殖と発生 ①有性生殖・無性生殖 ②動物の発生	(10)	中間考查
	9月			
	10月	3 生物の環境応答 ①刺激の受容 ②神経系	(20)	期末考查
	11月			
12月	30			
3 学期	1月	3 生物の環境応答 ③効果器と反応 ④動物の行動 4 一年間のまとめ	20	期末考查
	2月			
	3月			

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考查に加え、実習レポート、平常の授業への取り組み、出席状況を加味し、総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業に遅れたり休んだりしないこと。
- ・提出物の期限を守ること。
- ・実習レポートをきちんと提出すること。
- ・備品・標本はていねいに扱うこと。
- ・定期考查にはしっかりと学習して臨むこと。

教科	保健体育	科目	体育		単位数	2
学年	2年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修	

1. 学習の目標・概要

各種の運動を合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる様にするとともに、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

2. 使用教材

なし

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	オリエンテーション 体力づくり運動 スポーツテスト	(6)	
	5月	球技 (男子:ソフトボール 女子①:バレーボール) 器械体操 (女子②:マット運動) CM練習	(3) (3)	
	6月	球技 (男子:ソフトボール 女子①:バレーボール) 器械体操 (女子②:マット運動)	(4)	
	7月	選択Ⅰ 水泳 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ) or ダンス ※体育理論 2時間	(2) (2) 20	
2 学期	8月	選択Ⅰ 水泳 (クロール、平泳ぎ、背泳ぎ) or ダンス	(7)	
	9月	陸上 (長距離走)	(4)	
	10月	球技 (男子:サッカー 女子②:バレーボール) 器械体操 (女子①:マット運動)	(8)	
	11月	CM練習	(3)	
	12月	球技 (バドミントン、卓球、バスケットボール) ※体育理論 2時間	(6) (2) 30	
3 学期	1月	球技 (バドミントン、卓球、バスケットボール)	(6)	
	2月	球技 (バドミントン、卓球、バスケットボール)	(6)	
	3月	球技 (バドミントン、卓球、バスケットボール) ※体育理論 2時間	(6) (2) 20	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

出欠席、授業態度、意欲、技能、集団での行動、協力、服装等で総合的に評価する

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

評価の観点を理解し、安全に気を配り意欲的に授業に取り組む。

教科	保健体育	科目	保健	単位数	1
学年	2年	学科	普通科・国際教養科	履修対象	普通科・国際教養科必修

1. 学習の目標・概要

個人および社会生活における健康・安全について理解を深める様にし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 使用教材

大修館書店 現代高等保健体育・同ノート

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	思春期と健康 性意識と性行動の選択	(2) (2)	期末 考 査	
	5月	結婚生活と健康	(2)		
	6月	妊娠・出産と健康	(2)		
	7月	家族計画と人工妊娠中絶	(2) 10		
2 学 期	8月	加齢と健康 高齢者のための社会的取り組み	(1) (1)		
	9月	保健制度とその活用 医療制度とその活用	(1) (2)		
	10月	医薬品と健康	(2)		
	11月	さまざまな保健活動や対策 大気汚染と健康	(2) (2)		
	12月	水質汚濁・土壌汚染と健康 健康被害の防止と環境対策	(2) (2) 15		
	12月	健康被害の防止と環境対策	(2)		
3 学 期	1月	環境衛生活動のしくみと働き 食品衛生活動のしくみと働き	(1) (2)		期末 考 査
	2月	食品と環境の保健と私たち 交通事故の現状と要因	(2) (2)		
	3月	交通社会における運転者の資質と責任 安全な交通社会づくり	(2) (1) 10		
	3月	安全な交通社会づくり	(1)		

計35時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期試験、出欠席、ノート・プリントの提出、授業態度、意欲、を加味して総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

評価の観点を理解し、提出物の期限を守り意欲的に授業に取り組む。

教科	芸術	科目	音楽Ⅱ	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科音楽選択者

1. 学習の目標・概要

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2. 使用教材

教科書：高校生の音楽2 [音楽之友社]
副教材：MUSIC NOTE [啓隆社]

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	表現：ソルフェージュ【実技テスト・筆記テスト】	8	
	5月	表現・鑑賞：ドイツリート「愛」【実技テスト・筆記テスト】	8	
	6月			
	7月	鑑賞：ミュージカル【筆記テスト】	4	
2 学期	8月	表現・鑑賞：イタリア歌曲「帰れソレントへ」【実技テスト・筆記テスト】	10	
	9月			
	10月	器楽・鑑賞：リコーダー「愛の夢」【実技テスト・筆記テスト】	10	
	11月	器楽 キーボード【実技テスト・筆記テスト】	10	
3 学期	12月			
	1月	器楽 リコーダー【実技テスト・筆記テスト】	10	
	2月	鑑賞：オペラ【筆記テスト】	10	
	3月			

計 70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①関心・意欲・態度：毎授業ごとの取り組みの状況、遅刻・早退・欠席の状況
②芸術的な感受や表現の工夫：感性をはたらかせ、創意工夫を持って豊かな表現活動を行うことができたか。創造的な表現の技能：上手い下手ではなく、よりよい表現方法を試行錯誤し、創意工夫することができたか。鑑賞の能力：各種の鑑賞活動を通して、その良さや美しさを感じ取ることができたか
・①は毎授業ごとの取り組みが重視されるので、授業を受ける態度をしっかりとし、遅刻・早退・欠課をしないように留意すること。②については実技・ペーパーテストで評価します。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

遅刻・欠課をせず、意欲的・積極的な態度を望みます。

教科	芸術	科目	美術Ⅱ	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科美術選択者

1. 学習の目標・概要

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、美術文化についての理解を深め、個性豊かな美術の能力を高める。

2. 使用教材

美術2（光村図書）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	・オリエンテーション	1 10	
	5月	・「墨による表現」(絵画)		
	6月	↓	9	
	7月	・「和紙に親しむ -あかり-」(工芸)		
2 学期	8月	↓	10	
	9月	↓	20	
	10月	・「版で表す」(版画)		
	11月	↓		
3 学期	12月	・「風越祭ポスター」(デザイン)	19	
	1月	↓	1	
	2月	↓		
	3月	・まとめ		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

作品、提出物、発言、授業態度、自己評価、準備・片づけ、出席の状況等総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

・作品を期限までに仕上げ、提出すること。・必要な資料、材料等の準備は積極的に行うこと。・授業後の片づけ、物品の管理はきちんとすること。・鑑賞時等には自分の考え方や感じ方を積極的に述べるよう努めること。・幅広く美術に関心を持ち、感性を働かせて、美しく創造的な表現や材料・用具を生かす工夫、技能の向上、自然や人間、文化などの理解等に努め、積極的・意欲的に美術の活動に取り組んで下さい。

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科選択者

1. 学習の目標・概要

書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2. 使用教材

書Ⅱ（光村図書）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲	
1 学期	4月	漢字の書「篆書 泰山刻石・石鼓文」	(5)		
	5月	漢字の書「隸書 曹全碑・乙瑛碑」	(5)		
	6月	漢字の書「草書 十七帖・書譜」	(5)		
	7月	漢字の書「篆刻 朱文印の作成」	(5)		
			20		
2 学期	8月	漢字の書「篆刻 朱文印の作成」	(4)		
	9月	漢字の書「楷書 北魏」「行書 顔真卿」	(6)		
	10月	漢字の書「半紙作品制作」	(6)		
	11月	漢字の書「条幅作品制作」	(6)		
	12月	仮名の書「変体仮名・高野切Ⅰ」	(6)		
			30		
3 学期	1月	仮名の書「創作 短冊作品の制作」	(8)		
	2月	漢字仮名交じりの書「創作」	(8)		
	3月	まとめ	(4)		
			20		

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

「書表現の構想と工夫」「書への関心・意欲・態度」「創造的な書表現の技能・鑑賞の能力」を観点に、授業中の取り組み・作品・制作記録などから総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

漢字の書と仮名の書においては、書道史を踏まえ、書体の変遷に沿って臨書を行っていくので書の伝統と文化についての理解を深めてほしい。また、漢字仮名交じりの書では現代文を題材に、題材選定から作品完成に至るまで全て自分の力で取り組むことにより、表現することの難しさ、楽しさを感じ、達成感を味わってほしい。

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4
学年	2年	学科	普通科	履修対象	普通科全員

1. 学習の目標・概要

- ・教科書をじっくりと読むことで高校英語の基礎となる精読力をつける。
- ・教科書を音読すること、音声CDを聞くことなどを通して、英語を読む・聞く・話す力を総合的に高める。
- ・練習問題も使用して速読力を養成する。

2. 使用教材

LANDMARK English Communication II(啓林館)
 LANDMARK English Communication II 予習ノート(啓林館)
 LANDMARK English Communication II Workbook(啓林館)
 READING CORE 2(啓隆社)
 Wordbox Advanced(美誠社)
 英和辞典(アンカー英和辞典など高校レベル)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Lesson1: I'm the Strongest!	(10)	中間: Lesson1,2 期末: Lesson2,3
	5月	Lesson2: Tokyo's Seven-minute Miracle	(10)	
	6月	Lesson3: Saint Bernard Dogs	(10)	
	7月	Lesson4: Chanel's Style	(10) 40	
2 学 期	8月	Lesson5: Science of Love	(15)	中間: Lesson4,5 期末: Lesson6,7
	9月		(15)	
	10月	Lesson6: Gaudi and His Messenger	(15)	
	11月	Lesson7: Letters from a Battlefield	(15)	
3 学 期	12月	Lesson8: Edo: A Sustainable Society	60	期末: Lesson8,9,10
	1月	Lesson9: AI and Our Future	(20)	
	2月	Lesson10: Bhutan: A Happy Country	(20)	
	3月		40	

計 140 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

考查の結果を中心に、小テスト、提出物の提出状況、課題への取り組みなどから総合的に判断する。提出物の提出遅れや未提出については減点をするので、期限を確認して計画的に取り組むこと。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

英語は、一朝一夕で力がつく教科ではありません。3年生になって頑張ったからと言って、急に力がつくわけではありません。1年次に勉強の習慣や基礎学力を身につけていない者は、2年次に確固たる基礎力と勉強の習慣を身につけましょう。基礎力をつけるためにはどうするか。まずは教科書に出てくる単語と文法表現をしっかりと理解し、実際の言語使用でどのように使われるか覚えましょう。受験対策と言っても、結局は、1、2年のときに学んだ内容が土台となります。ゆえに、その土台がない人は復習から始めていきましょう。土台がないままで3年生になるとその応用ができず、受験に対応できなくなってしまいます。2年生では1年生の時以上に家庭での予習・復習を大切にして基礎固めと勉強の習慣を身につけましょう。そして日々の授業を大切にしましょう。授業を受け身で受けるだけで力がつくほど語学は甘くはありません。毎日少しずつでも、自分から英語に触れる努力を自主的に行いましょう。具体的には辞書を引き、文法書を読み、単語を学び、副読本を読み、といった一つ一つの面倒な作業を行ってください。来年にはその基礎を使って今の自分のレベルより高い英文をすらすら読めるようにしていきましょう。

教科	英語	科目	英語表現	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

- ・1学年で学んだ文法事項の復習を取り入れることを通して、得た知識を活用できるようになる。
- ・新しく学ぶ内容に関連した身近な内容の簡単な文を、書いたり、話したりすることによって、自分の言葉で説明できるようになる。

2. 使用教材

EMPOWER English Expression II mastery course(桐原書店)
 EMPOWER English Expression II mastery course Workbook (桐原書店)
 総合英語 FACTBOOK (桐原書店)
 Listening Trial Ver.3 Stage 2 (文英堂)
 英和辞典 (アンカー英和辞典など高校レベル)
 その他、随時ワークシートなどを利用

3. 学習の計画

	月	学習内容		配当時数	考查範囲	
1 学 期	4月	Grammar Lesson1~2 英語の語順	Writing Lesson1~2 自分について語る	(10)	1 学期中間	
	5月					
	6月	Lesson3~4 主語の形	Lesson3~4 ニュースの完走を述べる	(10)		1 学期期末
	7月					
2 学 期	8月	Lesson5~7 時制	Lesson5~9	(10)	2 学期中間	
	9月	Lesson8~9 助動詞/受動態	SNS や新聞に投稿	(10)		
	10月	Lesson10~12 準動詞	Lesson10~14	(5)		
	11月	Lesson13~14 関係代名詞	メール、カード、紹介			
	12月		文などを書く			(5) 30
3 学 期	1月	Lesson15~17 副詞句・副 詞節	Lesson15~20	(10)	3 学期中間	
	2月					
	3月	Lesson18~19 比較	自分の意見を書く	(6)		
		Lesson20 仮定法		(4) 20		3 学期期末

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

考查の結果を中心に、予習復習を含めた授業への取り組みの様子、提出物の内容、提出状況などから総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

1学年の時に学習した内容を基礎として、別の角度から文法事項を見直したり、書く・聞くなどの実際の言語使用を通して、英語を知識としてだけでなく実際に使えるようにしていきます。単なる問題集の答え合わせに終始することなく、自分が実際に言語使用の際にどのような文や表現をするのか主体的に学んでいきましょう。授業では積極的に英語を使用していく姿勢を常に持ち続け、英語についての多くの学びが得られるようにしていきましょう。一緒に頑張りましょう。

教科	英語	科目	英語表現 W / 英語表現 C	単位数	① (3単位中2単位分) ② (3単位中1単位分)
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	全員

1. 学習の目標・概要

- ①伝えたい内容を的確に表現するための発想法や語法を学び、まとまった文章を書く力を身につける。
②海外で編集されたより実践的な教材を用い、ALTの指導も加えて表現力、発話力を要請する。

2. 使用教材① (3単位中2単位分)

EMPOWER English Expression II mastery course (桐原書店)
EMPOWER English Expression II Workbook mastery course (桐原書店)
総合英語 FACTBOOK (桐原書店)
Listening Trial Ver.3 Stage 2 (文英堂)
英和辞典 (アンカー英和辞典など高校レベル)
その他、随時ワークシートなどを利用

3. 学習の計画

	月	学習内容		配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Grammar Lesson1~2 英語の語順	Writing Lesson1~2 自分について語る	(10)	1学期中間 1学期期末
	5月				
	6月	Lesson3~4 主語の形	Lesson3~4 ニュースの完走を述べる	(10)	
	7月				
2 学 期	8月	Lesson5~7 時制	Lesson5~9	(10)	2学期中間 2学期期末 3学期中間
	9月	Lesson8~9 助動詞/受動態	SNS や新聞に投稿	(10)	
	10月	Lesson10~12 準動詞	Lesson10~14	(5)	
	11月	Lesson13~14 関係代名詞	メール、カード、紹介 文などを書く		
	12月				
3 学 期	1月	Lesson15~17 副詞句・副 詞節	Lesson15~20	(10)	3学期期末
	2月				
	3月	Lesson18~19 比較	自分の意見を書く	(6)	
		Lesson20 仮定法		(4) 20	

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

考查の結果を中心に、予習復習を含めた授業への取り組みの様子、提出物の内容、提出状況などから総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

1学年の時に学習した内容を基礎として、別の角度から文法事項を見直したり、書く・聞くなどの実際の言語使用を通して、英語を知識としてだけでなく実際に使えるようにしていきます。単なる問題集の答え合わせに終始することなく、自分が実際に言語使用の際にどのような文や表現をするのか主体的に学んでいきましょう。授業では積極的に英語を使用していく姿勢を常に持ち続け、英語についての多くの学びが得られるようにしていきましょう。一緒に頑張りましょう。

2. 使用教材② (3単位中1単位分)

PASSPORT 2 (OXFORD) 英和辞典・和英辞典

3. 学習の計画②

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	1-2 What's the purpose of your visit ?	(3)	期末考查
	5月	3-4 When is the next train to Xi'an ?	(3)	
	6月	5-6 What is there to see ?	(4)	
	7月	7-8 Tell me about your country.	(4)	
2 学期	8月	9-10 Does it hurt ? I'd like a cup of coffee, please ?	(3)	期末考查
	9月	11-12 Would you like to visit the Temple of Heaven ?	(4)	
	10月	13-14 I'd like a chicken sandwich, please.	(4)	
	11月	15-16 Have you been to great wall yet ?	(4)	
	12月			
3 学期	1月	17-18 I don't think this is right.	(3)	期末考查
	2月	19-20 Did you pack this bag yourself ?	(3)	
	3月			

計 35 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の4つの観点に照らし合わせて、学習目標への到達度を総合的に評価する。

- ① 関心(interest)・意欲(enthusiasm)・態度(attitude) = 出欠(attendance)、課題(assignment)
(提出期限・達成度)
- ② 思考(thinking)・判断(clear judgment or opinion) = Interview test
- ③ 技能(skill)・表現(expression) = Video shooting、Presentation test
- ④ 知識(knowledge)・理解(understanding) = Written test、Listening Test、Interview test

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

1学年の異文化理解に続く授業です。単に与えられた課題をこなすという受け身な姿勢を脱し、積極的に発話、発信し、コミュニケーションの場としての授業をともに作っていく姿勢を持つことで英語を通じて異文化についての多くの学びを得られるようにしていきましょう。

教科	外国語	科目	英語理解	単位数	3
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	国際教養科全員

1. 学習の目標・概要

- ・教科書をじっくりと読むことで高校英語の基礎となる精読力をつける。
- ・教科書を音読すること、音声CDを聞くことなどを通して、英語を読む・聞く・話す力を総合的に高める。
- ・練習問題も使用して速読力を養成する。

2. 使用教材

LANDMARK English Communication II (啓林館)
 LANDMARK English Communication II 予習ノート (啓林館)
 LANDMARK English Communication II Workbook (啓林館)
 READING CORE 2 (啓隆社)
 Wordbox Advanced (美誠社)
 英和辞典 (アンカー英和辞典など高校レベル)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	Lesson1: I'm the Strongest!	(7)	中間 : Lesson1,2 期末 : Lesson2,3
	5月	Lesson2: Tokyo's Seven-minute Miracle	(7)	
	6月	Lesson3: Saint Bernard Dogs	(8)	
	7月	Lesson4: Chanel's Style	(8) 30	
2 学 期	8月	Lesson5: Science of Love	(10)	中間 : Lesson4,5 期末 : Lesson6,7
	9月		(10)	
	10月	Lesson6: Gaudi and His Messenger	(12)	
	11月	Lesson7: Letters from a Battlefield	(13)	
	12月	Lesson8: Edo: A Sustainable Society	45	
3 学 期	1月	Lesson9: AI and Our Future	(15)	期末 : Lesson8,9,10
	2月	Lesson10: Bhutan: A Happy Country	(15)	
	3月		30	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

考查の結果を中心に、小テスト、提出物の提出状況、課題への取り組みなどから総合的に判断する。提出物の提出遅れや未提出については減点をするので、期限を確認して計画的に取り組むこと。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

英語は、一朝一夕で力がつく教科ではありません。3年生になって頑張ったからと言って、急に力がつくわけではありません。1年次に勉強の習慣や基礎学力を身につけていない者は、2年次に確固たる基礎力と勉強の習慣を身につけましょう。基礎力をつけるためにはどうするか。まずは教科書に出てくる単語と文法表現をしっかりと理解し、実際の言語使用でどのように使われるか覚えましょう。受験対策と言っても、結局は、1、2年のときに学んだ内容が土台となります。ゆえに、その土台がない人は復習から始めていきましょう。土台がないままで3年生になるとその応用ができず、受験に対応できなくなってしまいます。2年生では1年生の時以上に家庭での予習・復習を大切にして基礎固めと勉強の習慣を身につけましょう。そして日々の授業を大切にしましょう。授業を受け身で受けるだけで力がつくほど語学は甘くはありません。毎日少しずつでも、自分から英語に触れる努力を自主的に行いましょう。具体的には辞書を引き、文法書を読み、単語を学び、副読本を読み、といった一つ一つの面倒な作業を行ってください。来年にはその基礎を使って今の自分のレベルより高い英文をすらすら読めるようにしていきましょう。

教科	英語	科目	時事英語	単位数	3
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

To experience current and pop culture English. Students will use a variety of ways to interact with English. ポップカルチャーなどに現れる現代英語にふれ、英語によるコミュニケーションの幅を広げる。

2. 使用教材

手作り教材。インターネット使用。

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間	考査範囲
1 学期	4月	【Project 1】: Listen & Tell ① Write about favorite song ② Present the song to class	(25)	プレゼン テーショ ン
	5月	【Project 2】: Sharing News ① Find news article ② Summarize the article and make presentation	(25)	
	6月	【Project 3】: ESL Radio ① Find and summarize news articles ② Decide radio show contents and jobs	(20)	
	7月	【Project 4】: Short Film Review	(25)	
2 学期	8月	① Present about short film	(25)	プレゼン テーショ ン 課題提出
	9月	【Project 5】: Lip dub ① choose movie clip and make original dialog ② Speak to match the mouth movements		
	10月	【Project 6】: Commercials ① Watch foreign commercials and write script for original ② Perform for the class	(25)	
	11月	【Project 6】: Anime ① Watch Japanese anime with English voices to compare ② Make powerpoint about the differences	(25)	
3 学期	12月	【Project 7】: Movie review	(25)	プレゼン テーショ ン
	1月	【Project 8】: Slang English ① Learn current young people English	(20)	
	2月	② Make a short skit using slang English		
	3月		45	

計 105 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

授業に対する前向きな姿勢、取り組み、課題の提出状況などを総合的にみて評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業内では情報収集を行うことはないのので、家のコンピュータ、Call室のコンピュータで有効に情報収集を行い、グループ発表やプレゼンに役立てましょう。この科目は基本的には筆記試験による定期考査を行わないので、課題への取り組みが評価の対象となる点に注意してください。課題の提出日を守り、グループでは協力して課題に取り組みましょう。この授業を通じてプレゼンのスキルアップを目指しましょう。

教科	外国語	科目	基礎英語会話	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	選択者

1. 学習の目標・概要

ALTとのチームティーチングにより基礎的な英語コミュニケーション能力の育成と向上をめざす。

2. 使用教材

My First PASSPORT 2 second edition (OXFORD)

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間	考查範囲
1 学 期	4月	0 Classroom English Using classroom expressions	5時間	学期ごとに授業内容をふまえてALTとJETによる面接試験を実施
	5月	1 May I open your suitcase? Understanding and answering questions at Customs	5時間	
		2 How was your flight? Making polite conversation with your host family		
	6月	3 What should we do tomorrow? Making plans	5時間	
		4 We're going to visit Chinatown Talking about plans		
7月	5 What do you do in your free time? Talking about free-time activities	5時間		
2 学 期	8月	6 This one is cheaper Asking about prices	4時間	
	9月	7 Don't forget your money! Understanding rules and advice	7時間	
	10月	8 Do you want to go to a concert? Making plans for the weekend	7時間	
	11月	9 I have to study Talking about things you must do	6時間	
	12月	10 Did you go on the roller coaster? Talking about the recent past	6時間	
3 学 期	1月	11 I need some help Getting help when you're lost	7時間	
	2月	12 Have you been to Kyoto? Talking about experiences and making recommendations	7時間	
		13 Can you describe it? Giving a description		
	3月	14 I'd like the nachos, please Ordering food and drink at a restaurant	6時間	

計 70 時

4. 評価の観点・趣旨および方法

コミュニケーションへの積極性、表現力、語彙力などを総合的に評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

間違いを恐れず、英語でコミュニケーションしようという意欲をもって取り組んでください。基本的な英語表現や語彙を使えるレベルにできるよう心がけてください。

教科	家庭	科目	フードデザイン	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	履修希望者

1. 学習の目標・概要

栄養、食品、献立、調理などに関する知識と技術を習得し、食生活を総合的にデザインできる能力を身につける。

2. 使用教材

教科書：「フードデザイン」（実教出版）

資料集：「生活学 Navi 資料+成分表 2020」（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時間	考査範囲
1 学 期	4月	食生活と健康 ・食事の意義と役割・食を取り巻く現状 調理実習①	6	1学期 期末考査
	5月	栄養素の働きと食事計画 調理実習②	8	
	6月	・炭水化物 調理実習③	6	
2 学 期	7月	・脂質	5	2学期 中間考査
	8月	・たんぱく質 ・ミネラル ・ビタミン	3	
	9月	調理実習④	6	2学期 期末考査
	10月	献立作成 調理実習⑤	8	
	11月	献立作成まとめ 調理実習⑥	8	
3 学 期	12月	行事食 調理実習⑦ 調理実習⑧	6	3学期期 末考査
	1月	ライフステージと栄養計画 調理実習⑨	8	
	2月	食品の特徴 調理実習⑩	6	
	3月	まとめ		

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

定期考査、レポート、授業態度、出席状況などを総合的に判断し、評価します。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・調理実習があるので、エプロン・三角巾を用意してください。
- ・電卓を用意してください。
- ・実習費が必要です。

教科	家庭	科目	生活総合	単位数	2
学年	2年	学科	普通科	履修対象	2学年選択者

1. 学習の目標・概要

1年次に学んだ「家庭基礎」の学習をさらに深め、生活に関わる様々な知識、技術を修得し実践する態度を養う。衣・食・住・家庭経済について学ぶことにより、社会人としての意識を高め、職業観を養う。

2. 使用教材

教科書：「新家庭基礎 パートナーシップでつくる未来」（実教出版）
資料集：「生活学 Navi 資料+成分表 2020」（実教出版）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	住生活「人と住まいのかかわり」 「住まいを計画する」	6	定期テストは実施せず、授業の中で適宜行う。
	5月	住生活「健康的な住まい環境」 「安全な住まい環境」	8	
	6月	実習「理想の住まい作り」	6	
	7月	衣生活「人と衣服のかかわり」 「衣服の素材」	5	
2 学 期	8月	実習「暮らしに役立つものづくり」	3	
	9月	実習続き	8	
	10月	衣生活「衣生活の管理」	8	
	11月	消費・経済「消費行動を考える」	6	
	12月	消費・経済「経済的に自立する」	6	
3 学 期	1月	食生活「日常食の調理」調理実習①	8	
	2月	食生活「日常食の調理」調理実習②	6	
	3月	食生活「日常食の調理」調理実習③		

計70時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ・考查の得点を基にして、提出物の状況、授業態度、出欠席状況などを加味する。
- ・年間の評定は、年間を通じて上記の内容を総合的に判断する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業に集中し、ノートをしっかりとる。提出物は必ず提出する。
新聞その他により情報を収集し、常に社会の動向に目を向ける。
学習したことを家庭で実践する。

教科	国際教養	科目	フランス語	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	フランス語選択者

1. 学習の目標・概要

日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する。
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。
リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

2. 使用教材

ケスクセ? (白水社)

3. 学習の計画

	月	学習事項	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	フランス語の文字と 発音	フランス語のアルファベッ トやその発音	4	期末考查
	5月	基本的な動詞①	第一郡規則動詞と、それら を用いた表現	6	
	6月	名詞と冠詞	名詞の性と数、不定冠詞、 定冠詞	6	
	7月	基本的な動詞②	動詞 être と、それを用い た表現	4	
2 学期	8月	形容詞	形容詞の性と数	2	期末考查
	9月	基本的な動詞③	動詞 avoir と、それを用い た表現	8	
	10 月	所有形容詞	家族や友人、持ち物や服 装に関する表現	8	
	11 月	基本的な動詞④	動詞 faire と、それを用い た表現	8	
	12 月	疑問詞	疑問詞を用いた表現	4	
3 学期	1月	基本的な動詞⑤	動詞 aller, venir と、 それらを用いた表現	10	期末考查
	2月	まとめ	まとめとして今まで 学習したことの復習	10	
	3月				

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①授業に対する前向きな姿勢、取り組み ②出欠状況 ③定期考查・小テストの結果
などを総合的にみて評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業では、積極的に学ぼう、話せるようになるという姿勢で取り組むことが大切です。

教科	国際教養	科目	スペイン語	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	スペイン語選択者

1. 学習の目標・概要

日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。
リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

2. 使用教材

ゼロからはじめる書き込み式スペイン語 Book (成美堂)

3. 学習の計画

	月	学習事項	学習内容	配当時間	考查範囲
1 学期	4月	基本ルール①	アルファベット、綴り字記号、読まない文字	4	
	5月	基本ルール②	アクセント、男性形、女性形、主語に応じて変化 する動詞	6	
	6月	基本ルール③	単数と複数	6	
	7月	母音の発音	強母音と弱母音、二重母音・三重母音	4(20)	
2 学期	8月	子音の発音①	b, v, c, s, ch, d, f, g, h, j, k, l, ll, m	2	
	9月	子音の発音②	n, p, q, r, rr, t, w, x, y, z	8	
	10月	基本表現①	あいさつ、初対面あいさつ、別れの挨拶	8	
	11月	基本表現②	お礼、謝罪、ご機嫌伺い、受け答え	8	
	12月	日常表現①	「～をお願いします」「～です」「～にいます/あ ります」	4(30)	
3 学期	1月	日常表現②	「～を持っています」「～を食べます」「～ではあ りません」	10	
	2月	日常表現③	「～はどこですか」「何/誰/どちらいくら/どのよ うに」	10	
	3月			(20)	

4. 評価の観点・趣旨および方法

①授業に対する前向きな姿勢、取り組み ②出欠状況 ③定期考査・小テストの結果
などを総合的にみて評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。

教科	国際教養	科目	中国語	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	中国語選択者

1. 学習の目標・概要

日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する。
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。
リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

2. 使用教材

新ゼロからスタート 中国語 (Jリサーチ)

3. 学習の計画

	月	学習事項	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	発音	単母音、二重母音、三重母音、鼻母音	4	期末考查
	5月	語順のルール (文の作り方)	主語、述語、目的語、数字、連体修飾語 連用修飾語、補語	6	
	6月	基本文	是の文型 省略文、疑問詞疑問文 有の文型、助詞、副詞	6	
	7月	平叙文	在3つの使い分け、結果補語、 自己紹介	4	
2 学期	8月	疑問文①	場所の尋ね方、曜日、日にち	2	期末考查
	9月	疑問文②	5種類、まとめ、二重目的語の フレーズ	8	
	10月	応用分	漢詩や歌など	8	
	11月	翻訳①	エッセイの紹介、翻訳をチャレンジ	8	
	12月	翻訳②	翻訳	4	
3 学期	1月	基礎問題演習①	「準4級レベル演習」	10	期末考查
	2月	基礎問題演習②	「中国百科定」チャレンジ	10	
	3月				

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①授業に対する前向きな姿勢、取り組み ②出欠状況 ③定期考査・小テストの結果
などを総合的にみて評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。

教科	国際教養	科目	韓国語	単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	韓国語選択者

1. 学習の目標・概要

日常使用する基本的な表現を修得するとともに、その言語を使用する国の文化を理解する
読む、聞く、話す、書くという言語活動を通して内容を把握するとともに、基本的な内容を伝達する。
リズム、イントネーションなど音声的な特徴に注意しながら話す。

2. 使用教材

新好きやねんハングルⅠ (好きやねんハングル編集チーム)

3. 学習の計画

	月	学習事項	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	ハングル文字を覚える	子音と母音の発音	4	期末考查
	5月	名詞を覚える	発音の規則	6	
	6月	名詞を覚える	パッチムと連音化	6	
	7月	短い文を書く	～は～です、助詞	4	
2 学期	8月	復習	ハングルの読み方、簡単な文	2	期末考查
	9月	動詞が含まれる文	語尾の活用、助詞	8	
	10月	長い文を書く	～に～があります	8	
	11月	映画や歌	韓国の文化の紹介	8	
	12月	動詞の活用	語尾の活用	4	
3 学期	1月	動詞の過去形	語尾の活用	10	期末考查
	2月	スピーチ練習	1分間のスピーチ原稿の作り と発表	10	
	3月				

計 70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

①授業に対する前向きな姿勢、取り組み ②出欠状況 ③定期考查・小テストの結果
などを総合的にみて評価する。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

授業では、積極的に学ぼう、話せるようになろうという姿勢で取り組むことが大切です。

教科	国際教養	科目	課題研究	単位数	1
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	国際教養科2学年

1. 学習の目標・概要

- ・研究テーマについて、深く探求する姿勢を身につける。
- ・テーマについて情報を集め、分析し、論述する力や考察する力を高める。
- ・まとめたものを発表することを通して、プレゼンテーション能力を高める。

2. 使用教材

ワークシート 新聞 RESAS

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学期	4月	・オリエンテーション	3	
	5月	・外部講師による講義 (テーマ設定の方法)	3	
	6月	・外部講師による講演会→レポート提出・評価①	4	
	7月	・外部講師による講義 (調査方法) ・研究テーマ確定 → 論文骨子提出・評価②	3	
2 学期	8月	・調査方法計画書の提出・評価③	3	
	8月	・夏季休業中に現地調査・中間レポート (調査結果報告)	2	
	9月	→提出・評価④	3	
	10月	・論文骨子修正→提出・評価⑤	4	
	11月	・外部講師による講義 (文章の書き方)	4	
3 学期	12月	・論文作成→ 提出・評価⑥	4	
	11月	・最終論文提出 → 評価⑦	3	
	12月	・プレゼンテーション準備	3	
	12月	・グループ内発表→評価⑧	3	
3 学期	1月		3	
	2月	・全体会における発表	3	
	3月	・1年間のまとめ	3	

計 35 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

- ① 講義の受講記録 ② 小論文 ③ プレゼン
④ 授業への取り組み ⑤ 課題への取り組み ⑥ 提出期限 等を総合的に評価します。

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- 1) 自分たちが暮らす地域への関心や理解を深めましょう。
- 2) 自分の興味・関心を生かしてテーマを設定し、自ら主体的に研究を進めましょう。
- 3) テーマに対する自分なりの考え(考察)を説得力あるものにするには、フィールドワークが重要です。関係者への聞きとりをする、その場所を訪れる、自らも体験をしてみるなど、足と頭を使いましょう。
- 4) ワークシートや論文等の提出期限は守ってください。

教科	国際教養	科目	日本文化		単位数	2
学年	2年	学科	国際教養科	履修対象	選択者	

1. 学習の目標・概要

多くの古典作品に触れることによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典作品を楽しみながら講読することにより、日本・中国の歴史文化を学び、人生を豊かにする。

2. 使用教材

- ①『古典A 大鏡 源氏物語 諸家の文章』（第一学習社） ②『古典A 学習課題帳』（第一学習社）
 ③『高校生の古典文法』（京都書房） ④『高校生の文法 演習編』（京都書房）
 ⑤『重要古文単語 315 三訂版』（桐原書店） ⑥『漢文学習必携』（京都書房）
 ⑦『新国語総合ガイド』（京都書房）

3. 学習の計画

	月	学習内容	配当時数	考查範囲
1 学 期	4月	【古文】 伊勢物語「渚の院」 伊勢物語「さらぬ別れ」	(6)	中間 考 査
	5月		(6)	
	6月	【漢文】 諸家の文章「答陳商書」 諸家の文章「飛雲渡」	(3)	
	7月		(1)	期 末 考 査
			(4)	
			20	
2 学 期	8月	【古文】 大和物語「旅寝の夢」 大和物語「いはで思ふ」	(8)	中間 考 査
	9月	堤中納言物語「はいずみ」	(4)	
	10月	【漢文】 搜神記「織女」 搜神記「売鬼」	(4)	
	11月		(6)	期 末 考 査
	12月		(8)	
			30	
3 学 期	1月	【古文】 大鏡「時平と道真」 大鏡「村上天皇と中宮安子」	(8)	期 末 考 査
	2月	【漢文】 搜神記「蟻王」 幽明録「買粉児」	(3)	
	3月		(5)	
			(4)	
			20	

計70 時間

4. 評価の観点・趣旨および方法

以下の①～④の観点から総合的に評価する。
 ①定期考査の素点 ②出席状況（欠課・遅刻・早退の数） ③授業態度（教材準備・発問評価・積極性等） ④家庭学習状況（課題提出・小テスト・ノート等）

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

予習を前提とした授業を行う。以下を各自で行った上で授業に参加すること。
 古文：語句調べ、本文書写、品詞分解、口語訳
 漢文：音読、本文・書き下し文書写、重要単語・句形のチェック
 授業後は必ず復習の時間をとり、重要語句、文法事項、句形等を覚えていくこと。